

平成21・22年度 校区外部評価の結果(最終まとめ)について

— 校区外部評価委員による評価結果と学校による内部評価結果 —

評価期間 8月1日～7月31日	学校番号 24	学校名 中延小学校
-----------------	---------	-----------

＜記入の仕方＞

①『第2回外部評価に関する協議会』へは、内部評価(自己評価／網掛け)の結果に「中間のまとめ」以降のものを追加し、報告してください。

②「今後に向けての考え」の欄は、校区外部評価結果と、学校の内部評価と比較・検討し、学校の受け止め方を明確にした上で、学校の考えをお書きください。
※今回は最終まとめですので、1年間を総括し、具体的に表記してください。

③各校で、特に重点を置いた設問などについて、印を付けるなどの工夫をしてください。

④その他、参考となる事項がある場合は、末尾にご記入ください。

評価項目 その1【基礎学力の定着に関して】

校区外部評価の設問	評定 ※外部	評定について	評定 ※内部	今後に向けての考え
〔教師の姿〕 ①児童・生徒に学習の準備をさせている。 (学習への心構え)	B	・3分前の行動について実践できる児童は増えているが、学習の準備・心得・心構え等の学習ルールに関して、自主的に行動できるように3分前には着席する必要があることを再度教えするなど、指導の徹底を望みたい。学習の準備はよくさせている。机上整然としていた	B (B)	・連携校との生活指導を考慮し、自主的に行動しチャイム着席ができるよう指導を続けてきているので多くの児童ができてきている。定着していない児童に対しては、直接指導したり市民科の授業等を通じ意義を理解させたりする。
〔教師の姿〕 ②児童・生徒に指示や説明をしっかりと聞かせている。 (学習への意欲・態度)	B	・教材や指示の仕方によって皆真剣に取り組む、先生のアドバイスもあり楽しんで授業をしていた。教師の指示をしっかりと聞いている学年が増えてきている。まだ、「話す・聞く」の約束が浸透していないと感じる。	B (B)	・児童の学習意欲を引き出すような課題提示や教材提示の工夫をして指導する場を設定する。また「話す・聞く」ことが重要であるという雰囲気醸成していく。指導の結果について学年会で確認し、効果のあった方法を互いに共有していく。
〔教師の姿〕 ③児童・生徒に正しい姿勢で学習させている。 (学習規律)	B	・授業の始めと終わりの姿勢や挨拶はよくなっている。ただ教材によって授業態度が違うこと。姿勢にまだばらつきがある。文字を書く時の姿勢、鉛筆の持ち方は課題である。	B (B)	・文字指導の仕方を教員にも研修させていく。また、返事をして発表する事を徹底する。姿勢や鉛筆の持ち方などの学習のきまりを教室に掲示する。家庭でもできることについては、学年だより等を通して家庭への呼びかけを行う。
〔教師の姿〕 ④児童・生徒を学習に参加させる指示や質問をしている。 (学習活動)	B	・ノートの書き方やとり方は以前よりよいがもう一歩進んだ方法はないか。また、全学年で共通性の有る方法の研究を望む。教師の話をしっかりと聞く姿勢を児童全員に身につけてほしい。	B (B)	・ノートの記述の仕方について、必ず記述する内容を確認し、復習等で活用できる形となるよう引き続き指導していく。
〔教師の姿〕 ⑤板書の書き方が丁寧である。 (授業の展開)	B	・各学年に応じて、教科ごとに工夫したわかりやすい板書になっていて、概ね良好である。学年に応じて分かり易く板書されている。	B (B)	・板書計画を立て、わかりやすい板書を心がけるように引き続き取り組んでいく。OJTとして教員同士で見あわせて、チェックをしていくようにする。
〔教師の姿〕 ⑥児童・生徒の意見を正しく聞き入れ、質問にはわかりやすく答えている。 (児童・生徒への対応)	B	・自分の意見を述べたり質問したりする子は、低学年では多く見受けられるが、中・高学年と上がるにつれて少ないと感じられる。しかし、質問や不明なところを適切な応答をしていた。	B (B)	・昨年度取り組んだ、市民科の研究で授業規律の定着を図ることに取り組んできたことを、今後も継続して行く。
〔教師の姿〕 ⑦机間を回り、個々の児童・生徒の学習の様子を確認している。 (個別対応)	B	・学習態度をよく見て学習を進めていると思われるが、低・中・高と授業形態が違って来るので、どう個別指導していくか検討すべきと考える。	B (B)	・一人一人の児童の姿勢やノート、動きをチェックして学習の様子を確認していく。朝と午後の学習の時間や高学年のステップアップ学習、中学年の個別学習の時間を使って補充の学習を行う。低学年は午後の時間を使って個別指導を行う。
〔教師の姿〕 ⑧授業に工夫が見られる。 (授業の工夫)	B	・先生方の努力はよく判るが、「読む力」「考える力」を向上させてほしい。鶴亀算的な、考える道筋を説明するような授業の工夫をしてほしい。また、教材によって学習姿勢がちがったり、真剣さが違ったりするので、そのあたりの工夫が必要である。	B (B)	・「読み取る」力の育成を校内研究会の主題として取り組んでいる。各学年で授業を行い教員の授業力の向上を図る。発表の際に筋道立てた説明ができるように、考えを述べる手順を指導する。

〔教師の姿〕 ⑨ノート等に正しく丁寧に文字や数字を書かせている。 (基本的な指導)	B	・ノートの記入の仕方については丁寧に書くよう向上してきている。鉛筆の持ち方や誤字・脱字などは引き続きの改善を図ることを望みたい。保護者への協力要請が必要と思われる	B (B)	・ノートへの記入をしっかりとさせて、基本的事項を決め、丁寧に書くように共通理解をする。鉛筆の持ち方については、引き続き家庭と連携して取り組んで行く。改めて指導を重ねていく。
〔教師の姿〕 ⑩児童・生徒の顔をしっかりと見ながら授業を進めている。 (状況確認)	B	・各教師は、児童が授業に集中するよう明確な指示と発問を工夫するよう心がけているためおおむね良好と評価できる。ただ、クラス全体の児童の把握と確認も望みたい。	B (B)	・引き続き授業での児童の反応を大切に、理解の確認を図りながら授業を進めていく。また、次時の授業の状況確認等に生かすためにも、 <u>児童に授業の最後に学習感想を書かせるように努めていく。</u>
〔教師の姿〕 ⑪授業のねらいが明確である。 (指導)	B	・大体良好であるが、どの児童にも学習のねらいが自覚でき、学習を進めていくことができるような取り組みを望みたい。言葉の選び方を工夫して進めてもらいたい。	B (B)	・児童に学習の見通しをもたせるため、 <u>各授業で学習のめあてを板書して必ず確認する。</u> そのために毎時間のねらいを明らかにした指導計画を作成する。若手教師には板書計画も合わせて作成させる。
〔教師の姿〕 ⑫一人一人の児童・生徒の学習状況を確認している。 (評価)	B	・児童の実態に合わせ、概ね良好と評価できる。一人一人の児童の学習状況を確認したことを、さらに個別指導につなげ基礎基本の定着を図るよう望みたい。	B (B)	・授業では、ねらいに沿った活動を行っているかを活動ごとに評価し、指導にあたる。また、学習感想や小テスト、単元ごとの評価テストを行って、学習状況を捉え、個別指導する。原則として、間違いはその場で訂正させる。
〔教師の姿〕 ⑬家庭学習を習慣化させている。 (家庭との連携)	B	・家庭学習や基本的な生活習慣の意義を理解出来ずにいる保護者もいると思われるので、保護者への啓発も含めて取り組んでほしい。適度な宿題はある程度必要。下校後の復習、予習は明日への意欲につながる。	B (B)	・宿題は基本的に毎日少しでも出すことで習慣化させることにする。 <u>家庭に学習したことの結果等について、確認のサインやコメントをもらう。</u> 家庭学習の実態調査の結果を保護者会等で話題にして保護者への啓発を図る。
〔授業の様子〕 ⑭話の聞き方や発表の仕方など、学習ルールが守られている。 (学習のきまり)	B	・かなりよくなっていると感じる。まだ、一部の児童に学習態度の悪い子や全く発言・発表しない子などがみられる。引き続き、発表の仕方などの基本的な点での指導から学習ルールの徹底などを望みたい。	B (B)	・中延の授業中の約束を決め、共通理解をする。話の聞き方や発表の仕方についてのきまりを提示して、継続的に指導する。学年会等で、専科の時間や習熟度別学習の状況について情報交換し、共通のルールで行われているかを確認する。
〔授業の様子〕 ⑮児童・生徒同士で考えたり話し合ったりする活動がある。 (集団での学習活動)	B	・お互いの信頼関係を深める手段として、集団での活動を通し、相談タイムなどを設けて話し合いをする等のことを通じ、今まで知らなかった相手のことを知る。また、知らなかった自分のことを知る。グループの輪の中に入れられない児童への配慮や言葉かけを必要とする。	B (B)	・授業中、発言が少ない児童、十分に理解できない児童のために小集団での話し合い学び合いの仕方を指導し、意識的に目的別や構成人数など、学習に合った形式で話し合う場を設ける学習形態を取り入れる。
〔授業の様子〕 ⑯児童・生徒が課題に一所懸命に取り組んでいる。 (学習に対する児童・生徒の意欲)	A	・まず、興味を持たせることが第一。一所懸命に取り組むクラスが多くなってきている。しかし教師によって学習の雰囲気も違い、一部ではあるが中には無気力な様子の児童も見受けられる。	B (B)	・メリハリのない授業になってしまうことを防ぐためにも、児童の興味・関心を高められるような教材を工夫し、 <u>問題解決型学習を重視した授業づくり</u> をしていく。
〔授業の様子〕 ⑰全体的に活気がある。 (学ぶ意欲にあふれた学級づくり)	B	・学ぶこと、物事を知ることは、楽しいことであると感じられるような授業づくりのいっそうの取り組みを望みたい。学習に集中する場面が多く見受けられるようになってきた。	B (B)	・今年度、読解力を伸ばすよう多くの読み物教材を <u>活用した授業を校内研究で取り組んでいく。</u> 児童の意欲を高める教材を準備し、指導に生かす。それを基盤として研究を進めていく。
〔学校の様子〕 ⑱学力の定着・向上に対して、小学校と中学校の先生が定期的に集まり協議している。 (小中一貫教育の推進)	C	・中学校との交流は時間の許す限り協議を重ね、実施する方向で行って欲しい。さらに学力向上に向けた連携校としての取り組みに関する情報の発信と、小・中一貫しての意識的な取り組みを望みたい。	C (C)	・夏季休業中に連携する小中学校の教員が、学力テストを分析し、小中学校でそれぞれ何をしていくべきかを話し合っている。今後も定期的に協議を重ね、 <u>学力向上に向け連携しながら互いに取り組んでいく。</u> 本年度は荏原平塚学園の立ち上げの為、都合が付かないことが多かった。

評価項目 その2【社会性・人間性の育成に関して】

〔児童・生徒の姿〕 ①児童・生徒は、誰に対しても礼儀正しくあいさつ(※会釈も含む)している。 (望ましいあいさつ・返事、基本的習慣)	B	・前から比べると、学校外でもあいさつをする児童は増えてきている。しかし、挨拶は学校外、登下校時等を問わず、児童から声を出して挨拶してくる子はまだ少ない。声を出す訓練から始めてほしい。また、「ありがとう」と言う言葉を聞かない。しかし、明るい表情で挨拶する姿が増えてきている	B (B)	・腕章をつけている方は、顔と名前を覚えてあいさつできるように、朝会などでロールプレイをして指導を行っている。全体で気持ちのよい挨拶はまだできていないので、あいさつ強化週間を年間を通して実施する。さらに、声かけ指導を続ける。
〔児童・生徒の姿〕 ②児童・生徒は、学校のきまりを守って活動している。 (学校のきまり・校則の理解と励行)	B	・概ね良好。登校時やその他、時間的観念はかなりあるように思われる。目立ってマナーの悪い子は見受けられないが、逆に目立って良い子も見受けられない。	B (B)	・児童の実態に応じて「学校のきまり」について生活指導部を中心として見直し、職員の共通理解を図る。 <u>教室等に掲示して児童に周知するとともに、市民科で学習し、保護者にも協力を依頼する。</u>

〔児童・生徒の姿〕 ③児童・生徒同士は、適切な言葉遣い をしている。 (学校での言語環境)	B	・言葉の暴力はなくなったようですが、汚い言葉 やテレビ言葉は相変わらずある。 「美しい日本語」と言う言葉を国語なり市民化の 授業で取り入れたらどうか。	B (B)	・友だちを大切に第一歩が言葉遣いとして、市 民科等の授業で各学年に応じた指導を行う。 常にくり返し指導をして意識化を図る。
〔児童・生徒の姿〕 ④児童・生徒は基本的な生活習慣が身に ついている。 (家庭生活)	B	・食育が悪い様に窺える。特に朝御飯が不十分 ではないかと思う。家庭生活でのわがままと良 し悪しのつかないまま行動している。市民科の 強化と先生方の町内巡回などもしてみても如何 だろう。	B (B)	・市民科、家庭科、保健体育の学習の中で、各学年 に応じた食育を実施する。学校便り、保護者会等で 家庭に呼びかける。また、躰についても保護者会や 学年通信等で啓発していく。町内の巡回も含めて実 態をつかんでいくアンテナを張る。
〔児童・生徒の姿〕 ⑤児童・生徒は忘れ物をしない。 (基本的な生活習慣)	B	・自分の身の回りについて少し注意を払うようにな れば、改善されるように思われるが、現代社会 では、児童も保護者も、物に対する愛着や大切 にする気持ちが薄らいでいるように思うので、 さらに指導を望みたい。	B (B)	・ものを大切に指導を繰り返す、落し物について は、持ち主がわかるように記名を徹底する。 ・毎月1日を「記名の日」として定期的に名前チェッ クの機会を設ける。
〔教職員の姿〕 ①服装や身だしなみなどに気を付けて いる。 (社会人としての基本)	B	・教師の服装に付いては、以前より気をつけて いるようで、好感が持てる。今後も、教師が自分 自身で自分を律し、社会性、人間性を高めてい ってほしい。	B (B)	・OJTの観点からも教員同士が気にしていくよう、特 にTPOを心がける。互いに気づいたとき、常に注意 を呼びかける。
〔教職員の姿〕 ②児童・生徒に対して、場に応じた適切 な言葉遣いしている。 (模範であることの自覚)	B	・「～さん」という言い方が教師に浸透して いて人権尊重好ましい。授業中にアツと思うよ うな言葉遣いがあり、テレビのクイズ番組の解答 を見ているような感覚で驚いた。	B (B)	・「～さん」という呼び方を全職員で実行していくこと にする。教師自身が手本となるよう自覚をもって児 童の指導を行うことを管理職から積極的に働きかけ る。
〔教職員の姿〕 ③保護者・地域の方々に対して、礼儀 正しく接している。 (他者に対する接し方)	B	・管理職の先生方は顔見知りでもあり、地域の 行事にも積極的に参加し、気持ちよく接してい るが、一般教職員は、あまり顔見知りでもなく、 信頼関係も薄く、意外と冷たい感じがする。	B (B)	・できるかぎり礼儀をもって接している。地域の行 事にできる限り参加するように努めている。お互いの 信頼関係を構築するように努める。
〔教職員の姿〕 ④児童・生徒の模範となる態度を心が けている。 (大人モデルとしての意識と自覚)	B	・教師として毅然とした態度で児童に接してい る。教師は児童にとって、全面的に信頼でき、 尊敬できる大人として、一番身近な存在であっ てほしい。	B (B)	・職員会議や研修会で社会人としての自覚を高める ように共通理解を図り、実践するよう努めている。
〔教職員の姿〕 ⑤児童・生徒の気になる言動や態度に 対してその場で指導している。 (生活指導)	B	・悪い言動には、厳しく対処し、注意されたこと が何故いけないことかを納得するまで指導する 場面も見受けられるなど、意識的な取り組みを 期待する。	B (B)	・毅然とした態度でその場で指導を行っている。学校 生活のきまりを各学級で掲示し、それに沿って各教 師が、生活指導部と連携して、児童の実態に合うよ うに月目標・週目標の重点化を図る。
〔教職員の姿〕 ⑥児童・生徒の生活指導上の問題につ いて、小学校と中学校で話し合いをし ている。 (小中一貫教育生活指導の姿勢)	B	・他校との連携は、生活指導主任会など定期的 に情報交換する場があり、問題ある時は、連携 して取り組まれており評価できる。地域が、わか らないことが多いので、一層の情報発信を望み たい。	B (B)	・引き続き生活指導主任会での情報を生活指導部、 職員朝会で周知共通理解を図っている。連携小 中学校の「きまり」の共通化を図るように生活指導部 で検討していく。中学でのチャイム着席に合わせて、 休み時間後の授業3分前行動の徹底に取り組んで いく。
〔教職員と児童・生徒の関係〕 ①児童・生徒は教職員に対して、年長 者に対する言葉かけや態度で接して いる。 (望ましい人間関係)	B	・よくなってきているとは感じている。授業中は 厳しく、休み時間は出来るだけ校庭での遊びに 参加して児童との信頼関係から言葉遣いや態 度の育成につなげてほしい。	B (B)	・全教職員で「感謝の気持ち」を育てることにつなげ て指導していく。市民科学習を通して各学年に応じ た指導を繰り返す。
〔教職員と児童・生徒の関係〕 ②児童・生徒は、教職員の注意や指示 を素直に聞き入れている。 (毅然とした態度と信頼)	B	・少なくとも反発している場面に合ったことはな いが、児童の行動の良し悪しをその都度判断さ せ、納得いくまで話し合う時間がほしい。	B (B)	・問題のある言動があったときは毅然とした態度で接 するとともに、善行があったときは褒めるというこ を繰り返す。そのため、生活指導部で情報交換し て共通理解を図り、全校体制で指導をしていく。
〔教職員と児童・生徒の関係〕 ③教職員は、児童・生徒一人一人へ自 然に話しかけている。 (児童・生徒との 日々のコミュニケーション)	B	・各集会や縦割り班遊び等では、お互いコミュニ ケーションがとれているように見える。 先生と児童の信頼関係を深めることを第一に子 どもの気持ちを汲み取ってほしい。	B (B)	・縦割り班活動や委員会、クラブ等で、児童は多くの 教員と関わりコミュニケーションをとっている。今後 も継続する。
〔地域の方と児童・生徒の関係〕 ①生徒は、地域の行事に参加してい る。 (地域行事への参加意識、 活動状況)	B	・区民祭り、商店街イベントなどや区外のイベント などにも積極的に参加しており、良好であると評 価できる。地域もさらに参加してくれるように、努 力しなければならない	B (B)	・学校便りや学年便り、ポスター等で地域行事を知ら せるとともに、各学級ではたらきかけを今後も行う。 また、地域にも児童が参加しやすい状況をつくるよ うに引き続き協力依頼をしていく。

評価項目 その3【保護者・地域との連携に関して】

〔教職員の姿〕＜保護者向け＞ ①学級における学習や生活の様子を伝えている。 (情報提供)	B	・真摯に受け止め素早い対応をしている事は事実である。今後、その反響なども把握し、さらなる充実を望みたい。	B (B)	・学校から情報を一方的に伝えるのではなく、保護者・学校の双方向で情報を交換し合う。PTAとの連携を図り意見交流の場を設定する。今後も学校説明会や学校公開、保護者会等で児童の様子を伝えていく。
〔教職員の姿〕＜保護者向け＞ ②保護者に誠実な対応をしている。 (説明責任)	B	・必要に応じ児童の様子を保護者に伝えたり、家庭からの連絡で、話し合いが行われている取り組みは評価できる。今後、満足のいく結果となっているかどうかの検証も必要と考える。	B (B)	・保護者の意見を真摯に受け止めて、できるだけ早い対応をする。対応の経過や結果について連絡をする。校内の取り組みについては保護者アンケートを実施している。年度末の学校便りで、その結果を知らせている。
〔教職員の姿〕＜地域向け＞ ①地域で会ったときに、あいさつをしている。 (礼儀)	B	・地域に向けてよく協力し連携しようとする努力は認める。社会人として常識的な行動をいただければそれで十分である。	B (B)	・子どもの模範になるよう、社会人として常識的な行動をしていくよう努めていく。
〔教職員の姿〕＜地域向け＞ ②町会の行事に、教職員が参加や協力をしている。 (地域と積極的に連携する姿勢)	B	・少人数の学校ゆえか、結構、参加者や協力者は多いと思う。先生も多忙なので大変だと思う。これ以上参加するのは困難なこともあるだろう。	B (B)	・少人数の学校なので教員の参加はかなり難しい面がある。ただ、管理職と1・2名ではあるが、参加している。もう少し参加できるように工夫して行きたい。
〔教育活動への参加〕＜保護者向け＞ ①学校は保護者が教育活動に参加しやすいように工夫している。 (保護者の視点からの学校公開)	B	・保安上、学校が閉鎖的になっているので参加しにくい面がある。学校からの要請も多く、地域もまた、それに応えている。が、しかし、もっと多方面にも展開を求む。新しい情報を提供し、ホームページ等で連携することを望む。	B (C)	・毎学期、学校公開を実施している。市民科など保護者参加型授業を行っている。学校行事、集会、研究授業等公開している。学校便り、学年便り等で保護者へ呼びかけていく。 ・ <u>学校の取り組みをわかりやすく地域にPRする。</u>
〔教育活動への参加〕＜地域向け＞ ②学校は、地域の環境や人材を活用する学習計画を立てている。 (地域環境・人材の活用)	B	・「学校便り」「学級便り」を中心に情報提供している。学校掲示板も大きく見易い掲示となっており、速効性もあり、更新も適宜行われている	B (B)	・年間で、地域のゲストティーチャーを計画的に招いて指導していただくよう計画を立ててお願いしている。
〔学校からの発信〕＜保護者向け＞ ①最新の学校情報を発信している。 (保護者の視線に立った情報公開)	B	・「中延小だより」「学年便り」「学級便り」は頻繁に出されている。学校の情報を知る大切な手段であり、子、孫の教育指針にしている人もいる。校門の掲示板は写真は多用しているがもう少し工夫できないか。	B (C)	・学校だよりや学年便りを発行し、学校に対する意見などは、各種アンケートや毎学期の保護者会で聞いていく。 ・ <u>ホームページの更新をこまめに行う。</u>
〔学校からの発信〕＜保護者向け＞ ②保護者に成績の付け方についてわかりやすく説明している。 (評価に対する説明責任)	B	・年度始めに全体保護者会で説明するほか、各学期末の保護者会や学年便り等で説明していると聞いている。	B (B)	・4月当初、保護者会、さらに、学期末の個人面談や保護者会で担任から説明している。特に2年生から3段階評価になるので、詳しく説明をしている。
〔学校からの発信〕＜保護者向け＞ ③防災や不審者の情報を速やかに発信している。 (防災・安全に関する情報発信)	B	・配信メールや連絡網で情報発信している	B (B)	・配信メールを活用して発信している。避難訓練等の強化 尚、8・3運動の更なる強化を図る。地域の協力を求める。
〔学校からの発信〕＜地域向け＞ ①学校だより等が地域の掲示板に貼られている。 (地域への情報発信)	B	・町会に毎月配られており、毎月楽しみにしている。学校の情報として目を通す習慣になっている。	B (B)	・近隣5町会と交通ボランティアなどに毎月配布している。掲示板にはスペースがなくなると聞いている。
〔学校からの発信〕＜地域向け＞ ②管理職は、町会に積極的に参加し、交流を図ろうとしている。 (地域連携に対する管理職の姿勢)	A	・防災訓練や町会行事には管理職が積極的に参加している。先生方までは忙しいから参加は大変だろう。	B (B)	・今年度も二町会の防災訓練、第3地区運動会の会場となる。これからも、地域や町会と積極的に連携・交流を図っていく。

評価項目 その4【環境・美化に関して】

〔学校の状況〕 ①児童・生徒が落ち着いた生活を過ごしている。 (生活指導)	B	・概ね良好。校内は落ち着きが増しているように思う。学年により問題も多くあるように聞き及んでいる。良好な対応を期待している。	B (B)	・生活習慣の確立と信頼関係の強化を目指し、児童の心の安定を図る学習環境を整備したい。
〔学校の状況〕 ②校内の学習環境が整えられている。 (清掃・美化)	B	・地域の方にも周囲の美化に協力いただきながら清掃している。もっと地域からボランティアを募ったらどうか。(屋上緑化も含む) ○この学校は「中延の森」もあり、大変かともうがよくなっている。	B (B)	・中延の森のクスノキの落葉などは地域の方のお手伝いをいただきながら美化に努めている。 ・ <u>今後屋上緑化の地域ボランティアを地域から募集する用意をすすめる。</u>

〔学校の状況〕 ③児童・生徒による校内清掃が行き届いている。 (清掃指導)	B	・概ね良好。落ち葉の季節の校庭の隅々の枯れ草が気になったが他は良好。	B (B)	・清掃分担計画を作成し、指導の徹底を図る。畑や校庭、中延の森等は、市民科で取り組んだり、各学級で定期的に振り返りの時間を設けたりする。ボランティアの日の活動の中でも計画して取り組む。
〔学校の状況〕 ④来校者に学校の活動や児童・生徒の活動がわかる校内掲示がある。 (学習環境を整える校内掲示)	B	・学校らしさが出ている。楽しく拝見している。校内の児童の作品・作文などはどれも学習の姿を知る貴重な掲示物で様子が分かって楽しみにしている	B (B)	・示物の掲示計画を立てる。教室内外は、常掲するものと現在の学習の状況が分かるものとを区別して掲示を行う。
〔学校の状況〕 ⑤破損箇所に対する対策が施されている。 (安全管理体制)	A	良好	B (A)	・日常の安全点検や全職員による月例、学期末の安全点検を実施し、破損箇所を見つけ次第すぐに対応していく。

評価項目 その5【独自の特色ある教育活動に関して】

〔読書活動〕 ○児童は物語を読んだり調べ学習で活用したりして本に親むことができたか。	B	・読書量は確実に増えてると感じる。登下校時、本を抱えている姿が多いことから推定。感想文は書いているのか発表はしているのかなど、子どもたちに聞いても返答が鈍い。	B (B)	・毎週金曜日の朝に朝読書を今後も継続する。国語の授業に音読の時間を設定し、各学年の実態に応じて実施している。読み聞かせボランティアが定期的に全学年に入り、読書活動の啓発を行っている。
〔交流活動〕 ○小中の児童生徒、特別支援学級、地域の施設の方、縦割り班などとの価値ある交流ができたか。	A	・すべて極めて活発に活動していると受け止めている。	B (B)	・縦割り班活動は、「遊び」や「給食」で交流活動を定期的に実施している。集団の中で、リーダーとフォロアーの関係を指導していく。保小連携は、全学年で活動の機会を設けている。特別支援学級との交流は、全学年に働きかけて、交流活動の機会を設けている。
〔自然体験活動〕 ○中延の森を活用した学習や関連した学習を通して自然についての関心が高まったか。	B	・中延の森の活用は、以前より大分落ちているのではと感じている。(掲示・展示・発表等からの推定)地域・PTA を巻き込んでの工夫が必要ではないか。	B (B)	・これまで継続して、生活科・理科・図工科等の学習において、中延の森での活動を取り入れている。自然に対して児童が関心を深め、植物に関するリテラシーについての学習を環境部会が中心となって検討し、取り組んでいく。
〔その他気づいた事柄等〕 ○	B	・児童の豊かな心が育ってきているように感じる。登校の遅い子を迎えに行き連れ立って来る。安全ボランティアの方に、お礼の手紙を書いている子がいる。	B (B)	・ゲストティーチャーとして多くの地域ボランティアの方登下校を見守ってくれる安全ランテアの方など、児童が年間を通してお世話になる方々への感謝の気持ちを育てる教育を推進する。
〔 ○	B	・家庭教育の充実を図り、保護者の教育力を高める方策が必要である。	B (C)	・学校へ日頃からこない保護者が学校へ来るように学校公開をはじめとして、保護者参加型の授業を実施したり、PTAと協働の行事を企画したりして、関心を持つように働きかける。

校区外部評価の結果を受けての態度表明

「基礎学力の定着に関して」

○すべての教科で問題解決型の学習を推進する。すべての教員が、計画的な学習の流れ、板書計画ができるようにするとともに、児童の学習意欲や理解を高めるために、教材教具の工夫や発問などの授業技術の向上に力を注ぐことができるようにする。

「社会性・人間性の育成に関して」

○小規模の良さを十分に生かし、全教員が全児童の名前と顔を知り、全教員が児童一人一人を育てていく。どの教員も同じ指導し、全児童の基本的な生活習慣の確立を図るとともに、児童一人一人のよさや伸びを全教員が共有できるようにしていく。

「保護者・地域との連携に関して」

○学校が保護者・地域を、保護者・地域が学校を互いに支え合う関係を目指す。そのためには、地域行事の参加、地域人材の活用、様々な情報発信を活発に行うとともに、保護者・地域の声を共感しながら聞くことができるようにする。

「環境・美化に関して」

○安全点検・清掃を徹底するとともに、植栽や掲示にも力を注ぎ、きれいで気持ちのよい学校を継続させていく。

「独自の特色ある教育活動に関して」

○荏原平塚学園との小中連携、中延保育園との保小連携、特別支援学級との交流を意図的計画的に行い、児童の豊かな心とよりよく生きていく力を身に付けていく。